

IM インターシティミーティングとは

香川第Ⅰ分区・第Ⅱ分区18クラブのロータリアン約800名が一堂に会し、テーマを決め、それに対しての問題を提起しながら意見を述べ合い考え、勉強する場です。ロータリー活動の指針について練ります。

2019-2020年度は「奉仕の真髓」と題して、誰かを救う喜びを考える機会とします。

アトラクションとして、香川大学の学生さんたちの若さあふれるパフォーマンスをお楽しみ下さい。

2019-2020 年度
国際ロータリー第 2670 地区
香川第Ⅰ・第Ⅱ分区
合同インターシティミーティング

プログラム

- 12:00 受付開始
- 13:00 開会・点鐘
- 13:30 パフォーマンス
- 14:00 基調講演
- 14:45 シンポジウム
- 15:30 閉会・点鐘

骨髄バンクって？

命のボランティア。それがドナー登録です

骨髄移植や末梢血幹細胞移植は、白血病や再生不良性貧血などの病気によって、正常な造血が行われなくなってしまった患者さんの造血幹細胞を、健康な方の造血幹細胞と入れ替える（実際はドナーから採取された造血幹細胞を点滴静注する）ことにより、造血機能を回復させる治療法です。日本では「骨髄バンク事業」が1992年から開始され、これまでに多くの患者さんを救う実績をあげています。日本で骨髄移植や末梢血幹細胞移植を必要とする患者さんは、毎年少なくとも2000人を数えます。しかし、一般的に他人から骨髄移植ができる確率は1万人に1人とされています。そのため一人でも多くの患者さんを救うためには、さらに多くのドナー登録が必要です。ドナーを待つ患者さんにとっては、あなたの登録が、大きな希望になります。

基調講演

「白血病からの生還 ～命をつなぐバトン～」

全国骨髄バンク推進連絡協議会元会長 現顧問 大谷 貴子 氏

大谷貴子さんは、25歳の時に白血病になりました。闘病中にアメリカに骨髄バンクがあることを知りましたが、当時の日本には骨髄バンクが無く死を覚悟しました。その後、幸いにも骨髄移植を受けて生還しました。その経験から、骨髄バンクの必要性を訴えて日本骨髄バンク創設に尽力した一人です。全国骨髄バンク推進連絡協議会の元会長で、現在は顧問を努めながら全国各地で骨髄バンク啓蒙活動を積極的におこなっています。「プロジェクトX」や「情熱大陸」など多くのテレビ番組にも取り上げられました。関東在住ですが、チャキチャキの関西弁で笑いをとり聴衆の心を鷲掴みにする感動的な講演「命の授業」が好評を博しています。



シンポジウム

「奉仕の神髄 ～誰かを救う喜び～」

シンポジウムでは、患者の立場から、ドナーの立場から、医師の立場から、一般の若者の立場から、など様々な角度から骨髄バンクの真実と側面をあぶりだします。

シンポジスト 香川大学医学部附属病院血液内科 藤田 晴之氏
全国骨髄バンク推進連絡協議会顧問 大谷 貴子氏
三本松高校 三好 輝徳氏
香川大学ローターアクトクラブ 谷口 若奈氏